

2021年度・東広島市民講座報告

「小学生のための実践的な将棋講座」

早瀬光司

本講座の趣旨：各小学生が将棋を通して、「自分で考える」、および、「深く考える」を目指す。

指導対局方法：令和3年8月4日、5日、11日の3回（13時30分～15時）に、今年で3年目となる「小学生のための実践的な将棋講座」を開講した。受講生 10 名の内訳は、1、2、3、4、5 年生の各 2 名で、机五枚を円形に並べ机一つに将棋盤を2枚置いて小学生2名ずつが円形の外側に座り、（日本将棋連盟・五段の）早瀬が内側に入って 10 名全員に対して順繰りに指して廻る「将棋の多面指し」を行い、今年は 10 名全員に対して早瀬が駒を8枚落とす「8枚落ち」で指導対局を行った。

指導結果：1日目（8月4日）は、早瀬からは特に指導や助言をすることなく小学生 10 名に自由に将棋を指させたところ、時間内にほぼ 10 名全員が 1 局を指し終えることができた。ただ、早瀬に勝った小学生は1～2名のみで、ほとんどの子が相手陣への攻め方を知らないことが分かった。そこで、翌2日目は、どのように相手陣を攻めたらよいのかを細かく指導・助言する方針に決めた。

2日目（8月5日）は、正しい答え（最善手）を直接には教えないが、ヒントを出すなどして、「8枚落ち」でどのようにして相手陣を攻めたらよいのかを各小学生毎に細かく助言・指導した。早瀬のヒントに応じて 10 名全員が飛車と角を成って早瀬陣に侵入することができた。しかし、30 数手目の或る局面に至ると、全員が最善手を見つけられなかった。そこで、早瀬は「龍馬（角が成った駒）を動かす」というヒントを与えて、最善手を（自分で考えて）指してくるまで気長に待った。

そのうちにやっと、或る一人が、自分の龍馬を一つ左に動かして（早瀬の）歩を取った。早瀬は「はい、そうです、これが正解です。」と言って、その着手の意味を説明してあげた。その後、他の子らもその最善手に気付くようになり、その手に気付くとその小学生の顔が急に明るくうれしい顔になっていくのが見て取れた。これは、誰にとっても嬉しい「新しい発見の歓び」に相当する。

3日目（8月11日）も、やはり最善手を直接には教えないが、ヒントを出すなどして進め、途中、面白い局面を幾つも経験して小学生達は十分に楽しむことができた。最終的に小学生全員が早瀬に勝つ局面まで進めることができ、小学生はみな喜び、早瀬も大いに喜しかった。

4日目（8月12日）、早瀬は助言を控えて各自に自由に指させて、2～3日目で得た「学び」をどれくらい実践できるだろうかと楽しみにしていた。しかし、大雨警報のため将棋講座は中止となった。